

## 北極海航路の安全運航と課題

公益社団法人 日本海難防止協会  
研究統括本部 部長大貫 伸

北極海の航行に際しては、特別な技能や専門知識を必要とする。しかしながら、我が国商船隊(約2,000人の日本人船員及び約50,000人のフィリピン人ほかの東南アジア人船員)は、氷海や極寒下での航海経験に乏しい。氷と極寒は我が国商船隊のウィークポイントではなかろうか。また、我が国商船隊が学んできた海事教育機関では、氷海等での運航実務についてはほとんど教えてこなかった。また、教えるための適当な教材等も見当たらない。

北極海での運航実務に関する船員の教育・訓練は、今後、国際条約に則って実施されることとなる。その前提として、我が国商船隊は北極海の運航実務に必要な基本知識を習得しておく必要がある。基本知識の不足は、ヒューマンエラーによる事故を誘発する原因ともなる。基本知識不足を解消するための教材の作成は、現在、我が国の運航実務者の喫緊の課題の一つとなっている。

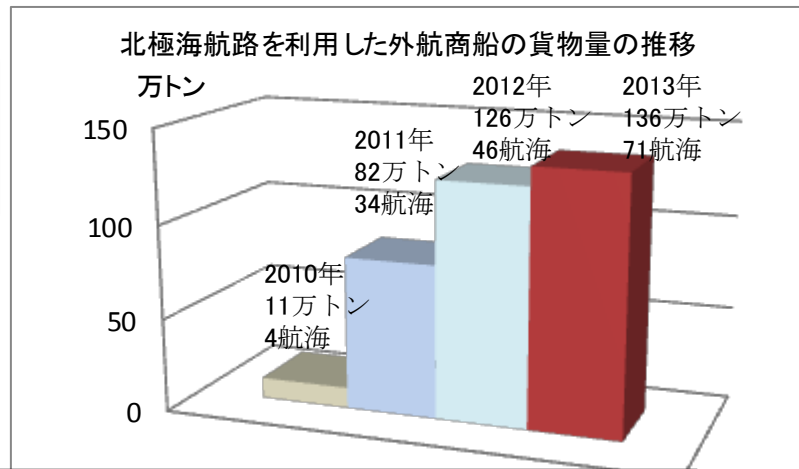
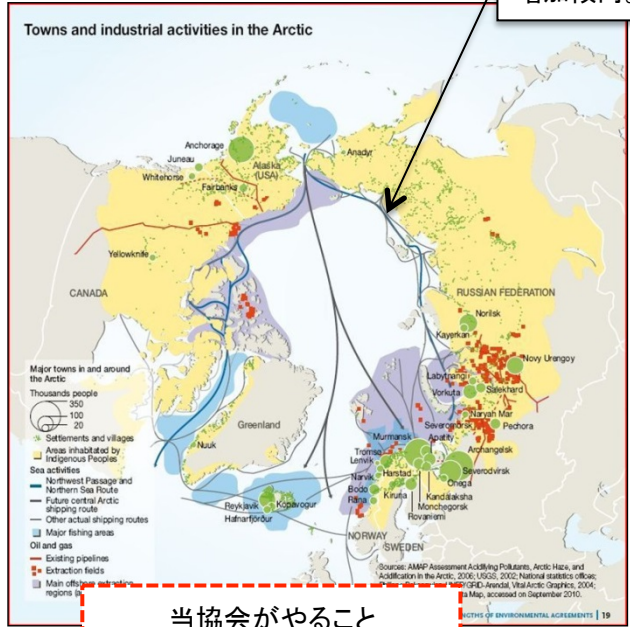
こうしたことから、当協会は今年度から、北極海航路の運航実務について解説した手引書「北極海航路のハンドブック」の作成に着手したところである。

本日発表された GRENE メンバーによる北極海航路に関する研究成果は、我が国の運航実務者にとっても大いに興味あるところであり、学ぶことが多々あった。今後、「北極海航路のハンドブック」に取り入れ、我が国商船隊のために役立たせて頂きたい。また、これらの研究が今後も継続して行われ、その成果に基づき運航実務者のための新たな航行支援ツール等が完成し、運航実務者の経験や技能不足をカバーするとともに、北極海の航行安全又は環境保護に貢献することを切に期待したい。

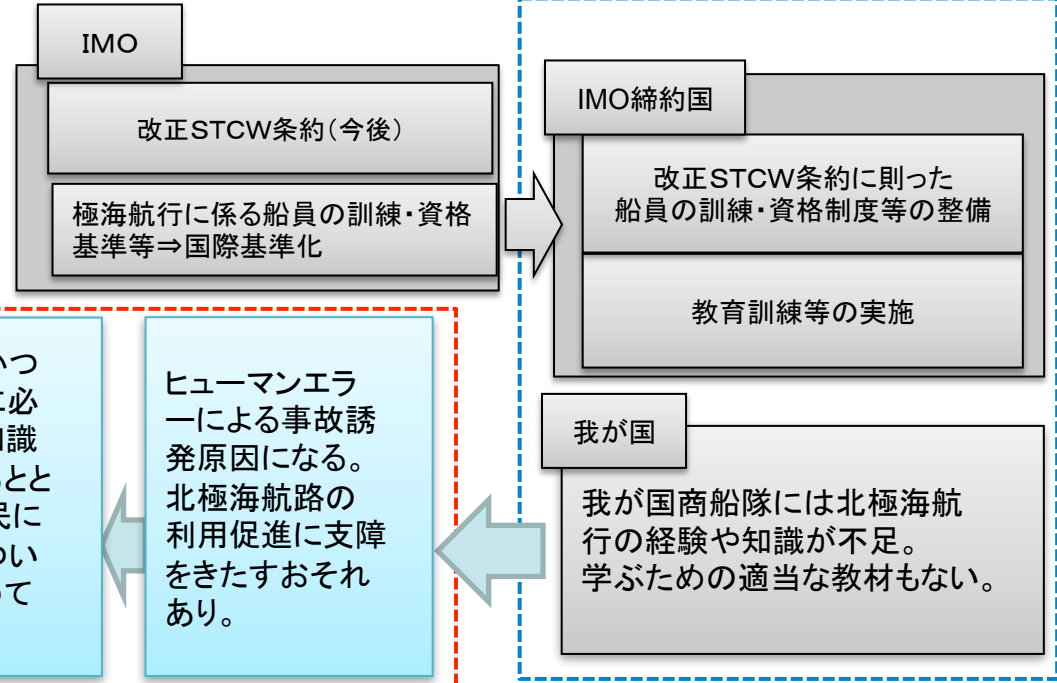
なお、北極海航路の利用にあたっては、その他にも課題が多く残されている。信頼できる水深情報の不足、捜索・救難インフラの未整備、港湾インフラの未整備、気象・海象情報の不足、海難に伴う北極海の海洋汚染対策、通信システムの脆弱性等々である。解決のためには、研究者の支援が必要な課題も多々ある。

# 「北極海航路ハンドブック」の作成事業

北極海航路(=北東航路)  
地球温暖化等によって海氷状況良化。2014年現在、国際海運の利用増加傾向。



- 2010年、ノルウェー～中国間の途中無寄港、鉱石輸送に成功
- 2012年、ノルウェー～日本間の途中無寄港、LNG輸送に成功
- 2013年、北極海の海氷面積、過去最少を記録



昨年度の入門書レベルの平易なハンドブックに引き続き、**主としてプロの船員を対象に、より詳細かつ高度な内容の実務書レベルのハンドブック(上巻)を作成・提供**、北極海航路の航行実務に関する専門技能・技術に係る基本的な知識等の普及を図る。⇒北極海航路の持続可能な利用促進と北極海の環境保護に貢献

北極海で円滑かつ安全な航行等に必要の基本的な知識等の普及を図るとともに、多くの国民に北極海航路についての理解を深めてもらう。

ヒューマンエラーによる事故誘発原因になる。北極海航路の利用促進に支障をきたすおそれあり。